

令和2年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果報告書
(令和元年度実績)

御代田町教育委員会

— 目 次 —

I 点検・評価の概要	
1 はじめに	1
2 目的	1
3 対象事業の考え方	1
4 点検・評価の考え方	1
5 意見等の活用	2
II 点検・評価の結果	
(基本方針・主要施策)	
・地域や子どもたちの実態に応じた活力ある学校づくりの推進 義務教育の振興	3
・いきいきとした生活を楽しむための充実した生涯学習の推進 生涯学習の推進	10
・スポーツへの主体的な取り組みの推進 生涯スポーツの振興	19
スポーツ施設の整備	21
・文化と芸術の織りなす地域づくりの推進 文化・芸術の振興	22
・次代と郷土を担う人材育成 奨学金制度の見直し	23
III 教育委員会活動	24

I 点検・評価の概要

1 はじめに

平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正され、平成20年4月から施行されました。

地教行法の改正目的である「教育委員会の責任体制の明確化」の一つとして、同法第26条の規定に基づき、教育委員会が毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行うことが義務付けられたことに伴い実施するものです。

2 目的

教育委員会は、首長から独立した立場で、地域の学校教育、社会教育等に関する事務を担当する行政機関として、全ての都道府県及び市町村等に設置されている行政委員会です。その役割は、教育次長以下の職員で構成される事務局を、様々な立場の複数の教育委員による合議により指揮監督し、中立的な意思決定を行うものとされています。

事務の点検・評価は、上記地教行法第26条の規定に基づき、教育委員会が、教育長以下の事務局を含む広い意味での教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的としています。

3 対象事業の考え方

本年の点検・評価の対象事業は、前年度である令和元年度分の事業実績としました。その対象範囲は、学校教育、生涯学習、文化振興及び体育振興に関することなど地教行法第21条で「教育委員会の職務権限」として規定されている事務など、本委員会が所管する全ての事務としました。

事業のまとめ方については、第5次御代田町長期振興計画の施策体系により、施策の柱・基本方針及び主要施策を踏まえつつ、教育委員会が行っている主な事業を網羅する形で該当事業を選定しました。

4 点検及び評価の考え方

対象事業の点検については、事業評価シート「2. 施策に該当する事業」欄の事業の内容（対象、実施状況、結果等）と「4. 施策に対する現状の課題、改善策等」の記述に反映させました。

評価については、事業評価シート「3. 事業評価の凡例」のとおり、事業の必要性、事業の妥当性、事業の成果、事業の効率性、事業の方針の5つの観点から評価を行い、評定では、A・B・C・D・E・Fの順に3から6段階に分けて自己評価を行いました。

5 意見等の活用

点検評価の客観性を確保し、かつ広い観点からの意見を求めるため、教育経験者や地域住民のために貢献されてきた団体の責任者等からご意見をお聴きする機会を設け、様々なご意見並びにご助言をいただきました。ご意見をいただいた方々は次のとおりです。

(敬称略)

(氏 名) (所属等は令和2年7月現在)

柳沢 充夫	御代田町民生児童委員協議会長
原田 千万	御代田町東原児童館長
山口 智之	御代田町スポーツ協会 副会長
堀籠 幸子	御代田町公民館グループ連絡会長
高田 和人	小学校読み聞かせボランティア

6 点検評価実施日

令和2年8月26日(水) エコールみよた 大会議室

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号) 抜粋

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

教育委員会 事業評価表

1. 施策の体系<御代田町長期振興計画>

施策の柱	次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります
基本方針	地域や子どもたちの実態に応じた活力ある学校づくりの推進
主要施策	義務教育の振興(学校教育の充実)

2. 施策に該当する事業

事業名	事業の内容(対象、実施状況、結果等)
1 学力向上対策研修事業	<p>教員の資質向上を図ることにより児童生徒の学力向上に繋げるため、指導主事(元小学校長)を任用し、学校を訪問指導しています。教員としての基本的な能力(授業力・生徒指導力・学級経営力等)を更に向上させることにより、児童生徒の学力向上に繋げるため、資質向上のための研修として「教職員研修会」を学校ごとに開催しました。</p> <p>また、小中学校三校合同研修会を開催し、児童生徒の主体的な学びを促す学習方法を研修しました。</p>
事業費 220千円	(事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= A 成果= A 効率性= B 方針= B
2 学力向上事業	<p>小学校における学力テスト(CRT:絶対評価法による検査)では、基礎的・基本的な学習内容の到達状況を適切に把握することができます。</p> <p>中学校における学力検査(NRT:相対評価法による検査)では、生徒の学力実態や課題を把握し、学習支援や指導の工夫・改善を行っています。</p> <p>これら各種検査により、学年・学級の習熟度や個々の実態把握をすることができ、学習指導・学力向上に繋げています。</p>
事業費 2,061千円	(事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= A 成果= A 効率性= A 方針= B
3 放課後学習塾事業	<p>小学生対象に、寺子屋塾を元年度から実施しています。小学校4年生から6年生までの児童を対象とし、算数を水曜日の放課後に1時間開講しています。寺子屋塾では、学習習慣の定着や基礎学力を向上させることを目的とした上で、できるかぎり個々の進度に合わせた指導を行い、学年ごとにテキストを活用して学習しています。</p> <p>【開催回数】水曜日の放課後(年30回程)</p> <p>【参加人数】小学4～6年生:97名(北小:53名、南小:44名)</p> <p>中学生対象に、ステップアップスクールを実施しています。元年度からは中学1・2年生まで対象を拡大し、水曜日の放課後に実施しています。数学と英語の2教科の内どちらかを選択し、全学年で開講しています。基礎学力の向上と応用的な内容の学習指導を行っています。</p> <p>【開催回数】水曜日の放課後(年25回程度)、夏季休暇期間(5回)</p> <p>【参加人数】中学1～3年生:80名(英語:38名、数学:42名)</p>
事業費 1,129千円	(事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= A 成果= B 効率性= B 方針= A
4 相談員・支援員配置事業	<p>いじめ・不登校対策・発達障がいなどの問題を抱える児童生徒のために、心の相談員・学習支援員などを配置し、児童生徒の実態把握や学習支援、個別指導、家庭訪問等のサポート体制を構築しています。中間教室では、中学の相談室や不登校児童生徒の受け入れの場として支援を行っています。</p> <p>保護者や児童生徒に対し、臨床心理学に基づいた教育相談を行うことにより、その子にとって一番適した学びの場の提供や医療に繋げることができています。また、より良い支援の手がかりを得ることを目的として、必要に応じて発達検査を行い、教育・療育の状況や発達上の課題把握に努めています。</p> <p>【配置数】心の教室相談員1名、中間教室1名、学習支援員11名、公認心理師1名</p>
事業費 18,887千円	(事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= A 成果= A 効率性= B 方針= A

5 教育支援事業	<p>教育委員会には、障がいのある子どもの就学先決定の権限と責任があります。障がいのある子どもとその保護者に十分な情報提供を行うとともに、その意向を可能な限り尊重しています。</p> <p>幼児、児童、生徒が義務教育を受けるにあたり、就学先についての相談を受ける場と適切な支援を行なうことを目的に教育支援委員会を設置しています。早期からの相談を通して、保護者に対して十分な情報を提供するとともに、教育支援委員会では、本人や保護者の意向を最大限尊重した上で総合的に就学先を判断しています。</p> <p>【教育支援委員会 延べ相談件数:16件】</p>
事業費 12千円	(事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= A 成果= A 効率性= A 方針= B
6 人権教育事業	<p>小学校における人権教育の取り組みとして、人権教育月間を設定し、心の集会(人権教育集会)、児童と教職員の人権意識チェックなどを行っています。</p> <p>中学校では、人権教育月間に、人権に関わる校長講話や外部講師による講演会、各学級での集中指導などを行っています。</p> <p>小中学校の教育活動を通じて、人権教育が推進されるよう取り組み、学級での授業をとおして学ぶことのほか、学年の段階に応じて人権意識を高めるよう取り組んでいます。</p>
事業費 0千円	(事業の自己評価) 必要性= B 妥当性= A 成果= B 効率性= A 方針= B
7 英語学習事業	<p>小学5・6年では、児童が英会話に慣れる体験や学習を行う中で、「読む・聞く・話す・書く」の4技能を育み、言語や文化に対する理解を深めながら、中学の英語に繋げる学習をしています。</p> <p>中学校における外国語教育の充実とコミュニケーション能力の向上を図るため、「読む・聞く・話す・書く」の4技能を養うとともに、基礎的・実用的な語学力の習得を目指して語学指導を行っています。また、課外活動における中学校英語弁論大会に向けて、外国人講師による指導を行うなど、精力的に活動しています。</p> <p>【小学校】外国人講師1名(北小・南小兼務)</p> <p>【中学校】外国人講師1名</p>
事業費 5,830千円	(事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= A 成果= A 効率性= A 方針= A
8 安全確保事業	<p>教育委員会では、警察、道路管理者、学校、PTAによる通学路安全推進会議を設置し、御代田町通学路交通安全プログラムを策定しています。</p> <p>教育委員会と関係機関(学校、PTA、道路管理者等)と合同で通学路点検を7月18日に実施し、通学路における危険箇所の把握とともに関係機関へ危険箇所の改善を要望しました。</p> <p>点検における改善結果として、通学路にある落下防止フェンスの交換整備がされています。</p> <p>また、滋賀県大津市での事故を受けて、緊急で通学路の主要な交差点の安全点検を行い、改めて現状を確認しました。</p>
事業費 0千円	(事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= A 成果= A 効率性= B 方針= A

3. 事業評価の凡例

事業の必要性	A:増加している B:横ばい C:減少している
事業の妥当性	A:妥当である B:ほぼ妥当である C:あまり妥当ではない D:妥当ではない
事業の成果	A:上がっている B:やや上がっている C:あまり上がっていない D:上がっていない
事業の効率性	A:高い B:やや高い C:やや低い D:低い
事業の方針	A:拡大 B:現状のまま継続 C:改善後継続 D:統廃合 E:休止 F:廃止

4. 施策に対する現状の課題、改善策等

<p>・児童生徒の学力向上に向けた教員対象とした資質向上の研修として、教員全員を一堂に会するのではなく、各学校を研修会場として実施しました。引き続き、指導主事による授業改善に向けた更なる支援が必要となります。</p>
<p>・放課後学習塾事業は、児童生徒の学習内容を定着させるためには、つまづいてしまった学習内容に戻って学び直すことや、同じ内容を繰り返し学習することも必要となります。より一層、個々の実態や学習進度に応じた指導を行う必要があります。</p>
<p>・発達障がいや学習に関するさまざま課題を持つ児童生徒への支援の重要性は高いため、児童生徒の状態に応じ、今後できる限り支援を継続していく必要があります。公認心理師による教育相談(発達検査・保護者との相談など)により</p>

<p>発達上問題ないか数値的にも把握することが可能となりました。発達に課題のある児童について、町の保健師と連携し、医療に繋げることができているものの、支援の過程において家庭との合意形成を丁寧に進める必要があります。</p>
<p>・教育支援事業を通じて、就学前に関わる相談、就学後の適切な教育や一貫した教育支援を進めています。町保健福祉課における、健診を通じて、支援を必要とする未就学児の把握と障がいのある子どもやその保護者に対する相談・支援体制を充実させることが課題となります。</p>
<p>・小学校では、2年度から英語(5・6年生)が教科化されるため、「読む・聞く・話す・書く」の4技能をバランスよく育み、中学の英語に繋げる学習を行い、中学ALTが小学校英語に関わるなど小学校の段階から基礎を養う必要があります。中学では更に実践的に高めていくという繋がりがあるため、小学校における英語授業の役割が重要となります。</p>
<p>・危険箇所の改善について、全ての箇所が改善できるものではないものの、緊急性が高い箇所は重点的に対応していく必要があります。今後も継続した安全点検並びに関係機関との連携を図りながら、児童生徒のみならず地域住民の安全確保に繋げる必要があります。</p>

5. 識者からの意見

<p>・元小学校長の指導主事による学校訪問について、教師の能力を向上させるためにもとても良い施策だと思う。</p>
<p>・放課後学習塾について、参加している子どもたちを講師が指導することで掘り起こしができるが、参加していない子どもたちは、掘り起こしできないので、参加していない子どもたちへの呼びかけを強化していただくと、良い意味で町の人材が育つと思う。また、効果がどのように出てくるのかどこで判断してどのような評価をするのが今後の課題である。</p>
<p>・放課後学習塾に参加している子どもが、後半になると参加せずに下校している姿が見られたので、参加を促す必要があると感じた。</p>
<p>・放課後学習塾に関連して、この段階でのつまづきを無くすために、先生方が教えるかつ子どもたちが自分自身で勉強ができ、ステップアップしていく「eトレ」のようなシステムの導入はどうか。</p>
<p>・通学路について、小学校高学年から中学生は通学路を通っていない子どもが見られる。各区の安全協会に協力を仰いだり、暗い道には街灯を設置するなど、より一層の安全策をお願いしたい。</p>
<p>・中学校に不登校生の保護者の集まりが行われていますが、参加率が低いと聞いている。各家庭に応じた解決策をお願いしたい。</p>
<p>・小学校や中学校における学習支援員の配置は良いことであり、需要は高まっている。高校に進学した後であっても支援が続いていくとよい。</p>

教育委員会 事業評価表

1. 施策の体系<御代田町長期振興計画>

施策の柱	次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります
基本方針	地域や子どもたちの実態に応じた活力ある学校づくりの推進
主要施策	義務教育の振興(学校教育施設・設備の整備充実)

2. 施策に該当する事業

事業名	事業の内容(対象、実施状況、結果等)
1 御代田北小学校 施設改良工事	<p>児童が使用する教室ロッカーが経年劣化により傷んでいるため、児童が安全に使用できるよう、修繕(研磨・塗装)を行いました。</p> <p>【改修内容】3階教室(5・6学年)ロッカー修繕[562千円]</p> <p>屋内運動場(体育館)床の老朽化により、床が滑りやすく児童が使用する際危険な状態であるため、床面の改修工事を実施しました。</p> <p>【改修内容】床面研磨、ウレタン塗装、各種スポーツラインコート引き[2,712千円]</p> <p>学校内の全ての教室へ冷房設備(エアコン)を設置することにより、児童が健康で快適に学習に専念できるよう、環境整備をしました。</p> <p>【改修内容】普通教室:14室、特別教室:7室、その他室:3室[56,540千円]</p>
事業費 59,814千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=A 方針=B
2 御代田南小学校 施設改良工事	<p>避難時などに使用する鉄製の非常口扉が劣化のため歪んでいるため、災害時の避難誘導が迅速にかつ安全に行えるよう、非常口扉(2箇所)を修繕しました。</p> <p>【改修内容】非常口扉修繕[469千円]</p> <p>建築基準法第12条の改正による防火設備(防火シャッター・防火扉)の検査を実施したところ、要是正の指摘を受けました。火災の際、防火設備が正常に作動しないと人命にかかわることから、緊急で改修工事を行いました。</p> <p>【改修内容】防火シャッター等交換工事[3,135千円]</p> <p>学校内の全ての教室へ冷房設備(エアコン)を設置することにより、児童が健康で快適に学習に専念できるよう、環境整備をしました。</p> <p>【改修内容】普通教室:23室、特別教室:11室、その他室:3室[79,717千円]</p>
事業費 83,321千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=A 方針=B
3 御代田中学校 施設改良工事	<p>中学校の来客用駐車場は、生徒の迎えによる車の出入りが多く、生徒の下校時(夕方)に交通安全上、危険をともなう場合があったため、駐車場内の照明を増設しました。(2箇所)</p> <p>【工事内容】駐車場照明増設工事[168千円]</p> <p>学校内の全ての教室へ冷房設備(エアコン)を設置することにより、生徒が健康で快適に学習に専念できるよう、環境整備をしました。</p> <p>【改修内容】普通教室:17室、特別教室:8室、その他室:3室[59,400千円]</p>
事業費 59,568千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=A 方針=B

3. 事業評価の凡例

事業の必要性	A:増加している B:横ばい C:減少している
事業の妥当性	A:妥当である B:ほぼ妥当である C:あまり妥当ではない D:妥当ではない
事業の成果	A:上がっている B:やや上がっている C:あまり上がっていない D:上がっていない
事業の効率性	A:高い B:やや高い C:やや低い D:低い
事業の方針	A:拡大 B:現状のまま継続 C:改善後継続 D:統廃合 E:休止 F:廃止

4. 施策に対する現状の課題、改善策等

•学校施設は、児童生徒の学習・生活の場であるとともに、安全で安心して学習できる環境整備が必要不可欠です。
また、非常災害時には避難所として地域住民の避難生活の拠点としての役割があります。日常のみならず、災害時においても十分な安全性・機能性を確保し、学校施設が常に健全な状態を維持できるよう、適切に維持管理を行う必要があります。
•公共施設等総合管理計画に基づく個別施設ごとの長寿命化計画(個別施設計画)を2年度末までに策定しなければなりません。厳しい財政状況下においても維持管理計画の実行や施設整備体制の構築により、財政的な負担を縮減し、修繕費や工事費の平準化を図る必要があります。
•学校遊具の老朽化や劣化により、事故が発生しないよう、安全基準に基づいた点検を実施し、基準を満たさない場合は早急に改修を行わなければなりません。施設同様、計画的な修繕や交換を行う必要があります。
•学校備品などについては、長期的計画に照らし合わせながら財政状況や学校の実情に応じて計画的に購入する必要があります。学校備品購入についても、施設同様に財政負担に対する平準化を図る必要があります。

5. 識者からの意見

•中学校の高層階の教室に設置されているグリーンカーテンだが、高層階に設置することは危険であると感じると同時に避難時の影響になる可能性もあるため、良い取り組みではあるが安全の確保をお願いしたい。
•施設の老朽化にともなう事故が発生しないよう、施設点検・維持管理に努めてほしい。

教育委員会 事業評価表

1. 施策の体系<御代田町長期振興計画>

施策の柱	次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります
基本方針	地域や子どもたちの実態に応じた活力ある学校づくりの推進
主要施策	義務教育の振興(学校給食)

2. 施策に該当する事業

事業名	事業の内容(対象、実施状況、結果等)
1 食育の推進事業	学校と連携し、料理教室、給食時の学級訪問を実施しました。栄養教諭や調理員と一緒に給食をとり、児童生徒が食の安全や栄養に関心を持つことで、食育の推進に繋がっています。また、小学校の読書週間に合わせて、本と給食のコラボ給食や、中学PTA試食会(18名)、南小1年保護者試食会(96名)を実施しました。 【料理教室】小学校1回、中学校3回実施、【学級訪問】37回実施、【コラボ給食】10回実施
事業費	35千円 (事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=B 方針=A
2 給食職員の資質の向上	衛生管理や調理設備の操作研修、給食研究大会への参加により、調理職員の知識や意識の向上を図っています。安心安全で美味しい給食を安定して提供できるよう、調理員がローテーションで調理工程を受け持ち、調理技術の向上に努めています。11月に行われた長野県産物を活用した献立コンクールでは、課題献立部門で優良賞を受賞し、日々の給食づくりにも役立てています。調理員13名の内、8名が調理師免許、2名が管理栄養士免許を取得しています。
事業費	10千円 (事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=B 成果=B 効率性=B 方針=B
3 地産地消推進事業	地元の生産者団体を通じて、町内産の野菜、味噌、米を学校給食に活用し、地産地消を推進しています。年度当初に生産者と年間の出荷予定を確認し、計画的な食材の活用をしています。伝統料理であるおにかけうどんに地粉を活用したり、ブルーベリーの手作りジャムの給食も継続して行っています。
事業費	425千円 (事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=B 方針=B
4 食物アレルギー対応業務	食物アレルギーの反応がある児童生徒は27名、他に牛乳飲用不可の児童生徒は20名でした。アレルギー専任栄養士を配置し、『学校生活管理指導表』に基づき、代替食を献立作成から調理、個別の受け渡しまで対応しています。学校や保護者との連絡・確認を徹底し、栄養教諭とアレルギー専任栄養士が二重チェックを行うことにより、提供誤りのないよう取り組んでいます。
事業費	985千円 (事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=A 方針=B
5 施設・設備の修繕業務	施設管理については、電気保安業務や厨房機器保守業務等、11業務を委託契約し、給食の調理や、食器・食缶の洗浄作業に影響が出ないよう、定期的な保守点検を行いました。施設内の簡易修繕については、職員が行い、適切な施設維持管理に努めています。
事業費	1,873千円 (事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=B 効率性=A 方針=B

3. 事業評価の凡例

事業の必要性	A:増加している B:横ばい C:減少している
事業の妥当性	A:妥当である B:ほぼ妥当である C:あまり妥当ではない D:妥当ではない
事業の成果	A:上がっている B:やや上がっている C:あまり上がっていない D:上がっていない
事業の効率性	A:高い B:やや高い C:やや低い D:低い
事業の方針	A:拡大 B:現状のまま継続 C:改善後継続 D:統廃合 E:休止 F:廃止

4. 施策に対する現状の課題、改善策等

•学校給食を通して食育の推進を図っており、学級訪問は栄養教諭だけでなく、引き続き調理員も一緒に訪問し、児童・生徒と意見交換をすることによって、給食づくりに反映していきます。
•調理後の反省会や、毎月の献立会議を通して、献立の工夫と調理の改善を行い、より美味しい給食の提供に努めます。
•共同調理場では、調理員13名が班編成をし、日々の作業を組織的に行うことで、ひとりひとりの作業技術の向上や効率化を図り、今後も安定した給食の提供を行っていきます。また、調理・洗浄作業はとても重労働であるため、作業中の安全等に十分配慮する必要があります。
•調理員の離職等により、給食の提供に影響がないよう、調理員・代替調理員の確保に留意していく必要があります。
•地元で生産される食材を積極的に取り入れ、地産地消の推進を図ります。
•食物アレルギーのある児童生徒が、今後も安心して食べられる給食を提供していく必要があります。
•施設や厨房機器の老朽化が進むことから、今後も定期点検を行い適切な維持管理を行っていく必要があります。

5. 識者からの意見

•アレルギーを持つ子ども27名分の代替食を準備することはとても大変だが、安全な給食を実現する上でとても大切なことであるため、引き続き続けて欲しい。アナフィラキシーショックが起きないように、取り組んでほしい。
•食育推進事業について、広報やまゆりで学校給食のレシピを掲載されているが、郷土の食材を給食で取り入れていることも積極的に広報するとよい。
•調理員の離職がないよう、健康状態や管理をしっかりするとよい。

教育委員会 事業評価表

1. 施策の体系<御代田町長期振興計画>

施策の柱	次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります
基本方針	いきいきとした生活を楽しむための充実した生涯学習の推進
主要施策	生涯学習の推進(総合的な学習機会の提供)

2. 施策に該当する事業

事業名	事業の内容(対象、実施状況、結果等)
1 社会教育推進事業	生涯学習は、非常勤特別職員として公民館長を配置し、学級講座、学習会、講演会、公民館活動、コンサート、展覧会など数多くの事業を実施し、学習機会の推進を図ってきました。 現在26団体の生涯学習関連グループが活動し、その輪が大きく広がっています。 また、各分館活動への支援を行っています。
事業費 8,137千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=B 効率性=B 方針=B
2 心理相談事業	めまぐるしい社会の変化や、家族形態が多様化・複雑化するなかで、心理的に不安定な状況に追い込まれる方が増加傾向にあります。 令和元年度4月より臨床心理士の田子先生を迎え非常勤職員として学校教育現場と連携して相談事業を実施しています。
事業費 1,960千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=A 方針=B
3 しめなわ作り教室	日本古来からの伝統行事の継承とともに、新年を自分で作ったしめなわで迎えてもらうことを目的に行っています。大人:21名 子ども:27名 合計48名により12月21日開催。
事業費 20千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=B 効率性=B 方針=B
4 歴史講座 歴史の旅	日本の歴史等を講義で学ぶことと、現地を訪れ理解を深めることを目的に行っています。 ①1月18日(土)「明治150年人々の生活はどう変わったか」講師:柳澤 哲 氏 参加者42名 ②2月15日(土)「令和」と万葉集 講師:土佐 秀里 氏 参加者15名 歴史の旅「奈良県方面 奈良県立万葉文化館、キトラ古墳壁画体験館 他」:参加者35名
事業費 511千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=B 方針=B
5 いきいき学級	性別を問わず、いきいきと暮らしに張り潤いをもって、人づきあいを楽しむことを目的に行っています。いきいき学級研修:参加者20名、いきいき学級講座:参加者33名 研修1回(第2回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。)講座2回
事業費 111千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=B 方針=B
6 きなんしまつり	生涯学習グループ及び各団体が、作品を展示し発表を行うなど、日頃の成果を発表することで、各団体の魅力を伝える場として定着しています。町補助614千円。 芸能発表会:参加団体28・参加者397名、総合文化展:参加者319名・出展数630点
事業費 614千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=B 方針=B
7 書初展	各分館の書道学級に所属している方、南北小学校3年生～6年生の児童、町内の書道愛好者の書初作品の展示会を実施しています。出展数:651点 1月4日(土)書初めを書こうを開催(講師:中山 明 先生)
事業費 15千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=B 方針=B
8 ピアノリレーコンサート	町内のピアノ愛好者によるピアノコンサート。あつもりホールにあるスタインウェイのピアノを多くの方に演奏してもらい、観客にもその音色を楽しんでもらうことを目的に行っています。 3月1日(日)開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
事業費 0千円	(事業の自己評価) 必要性=B 妥当性=B 成果=A 効率性=B 方針=B

9 理科読講座	楽しみながら読書や科学に興味を持ってもらうため、本の読み聞かせと科学の実験を行う講座です。NPO法人ガリレオ工房から講師を招き、小・中学生を対象に夏休み期間中に実施しました。参加者83名
事業費	302千円 (事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=A 方針=A
10 エコールサロンコンサート	町民の方に生演奏の音楽を気軽に聞き素晴らしさを感じてもらうため、町内及び近隣市町村で活躍する方の無料コンサートを4月～11月の第3土曜日の17:30～18:00に開催しました。 12月21日(土)エコールサロンコンサートinクリスマス(開場14:00開演14:30～あつもりホール)
事業費	0千円 (事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=A 方針=A
11 数学教室	夏休み特別講座～図形を使って問題に挑戦～ 8月4日(日) 参加者:5名 春休み特別講座～次元と結び目の話～ 3月8日(日) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
事業費	0千円 (事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=B 方針=B
12 楽しい英語教室	町民の皆さんに楽しく英語を学んでほしいとの思いから開催しました。 毎週金曜日11:00～12:00 19:00～20:00(5月から10月まで) 参加者:14名 毎週金曜日11:00～12:00 19:00～20:00(11月から2月まで) 参加者:18名
事業費	90千円 (事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=B 方針=B
13 ヨガ教室	「地域のゆとりヨガ教室」:10:00～11:00 7月～2月(火)(木)開催…(2～3回開催/1月) 参加者:お子様連れ(生後2カ月以降)から参加可。 「リラックス・リフレッシュヨガ教室」:18:30～19:30 7月～2月(金)開催…(2～3回開催/1月) 参加者:小学校高学年以上から。 どちらの、ヨガ教室も大変好評で、参加者に無理なく都合の良い開催日のみ参加できるよう、1回づつの参加費徴収としています。
事業費	0千円 (事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=A 方針=A

3. 事業評価の凡例

事業の必要性	A:増加している B:横ばい C:減少している
事業の妥当性	A:妥当である B:ほぼ妥当である C:あまり妥当ではない D:妥当ではない
事業の成果	A:上がっている B:やや上がっている C:あまり上がっていない D:上がっていない
事業の効率性	A:高い B:やや高い C:やや低い D:低い
事業の方針	A:拡大 B:現状のまま継続 C:改善後継続 D:統廃合 E:休止 F:廃止

4. 施策に対する現状の課題、改善策等

<p>・きなんしまつりに、引き続き子どもたちに参加してもらい観覧者の増加に努めました。また、理科読講座とエコールサロンコンサートを継続して実施するとともに、数学教室、楽しい英語教室を(年間2期・昼・夜2コース)開催し、学習機会の拡大を図りました。</p> <p>今後も既存事業の内容等の見直しを含め、新規事業の実施など地域社会に密着した学習活動の拠点として、一層の機能向上に努めます。この他に、公民館グループに小学校の総合学習の時間に参加してもらうなど、生涯学習の必要性についてアピールに努めます。</p>

5. 識者からの意見

<p>・地域に密着した学習はとても重要であり、子どもたちに地域の良さを知ってもらうことが将来町に帰ってくる人材を育てることに繋がる。公民館グループが小学校の総合学習の時間に参加することは重要である。</p> <p>・子どもを対象とした事業が多いが、学校の登校日にも配慮していただくと、より一層参加者は増加すると感じる。</p> <p>・理科読講座について、大人が見ても楽しい内容の講座であるため、さらに参加者が増えるような配慮をお願いしたい。</p> <p>・落語や能といった日本伝統文化に関する事業をお願いしたい。</p>
--

教育委員会 事業評価表

1. 施策の体系<御代田町長期振興計画>

施策の柱	次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります
基本方針	いきいきとした生活を楽しむための充実した生涯学習の推進
主要施策	生涯学習の推進(広報活動)

2. 施策に該当する事業

事業名	事業の内容(対象、実施状況、結果等)
1 公民館報発行事業	生涯学習及び公民館活動が行っていることを、分館長や参加者の声とともに情報発信することで、その必要性や楽しさをアピールするとともに、関連施設の利用及びイベントの参加促進などにもつながるよう取り組んでいます。 広報「やまゆり」やエコー事務所入り口にも、募集記事や活動報告を載せ事業の魅力を伝える活動に取り組んでいます。 公民館報発行回数:年2回(10月・4月)、発行部数:5,250部(広報やまゆりに掲載) 令和元年度よりSNSの運用を開始し、講座の募集や、実際の活動状況等を掲載し、公民館事業のPRに取り組んでいます。
事業費	120千円 (事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= A 成果= B 効率性= B 方針= B

3. 事業評価の凡例

事業の必要性	A:増加している B:横ばい C:減少している
事業の妥当性	A:妥当である B:ほぼ妥当である C:あまり妥当ではない D:妥当ではない
事業の成果	A:上がっている B:やや上がっている C:あまり上がっていない D:上がっていない
事業の効率性	A:高い B:やや高い C:やや低い D:低い
事業の方針	A:拡大 B:現状のまま継続 C:改善後継続 D:統廃合 E:休止 F:廃止

4. 施策に対する現状の課題、改善策等

<ul style="list-style-type: none"> 公民館報等で情報発信を行うことで、その必要性や楽しさを伝えていますが、参加者や年齢層が固定されています。平成28年度より広報「やまゆり」と公民館報を一緒の冊子で発行するように変更を行いました。こうしたことで、より多くの方に公民館活動を知ってもらえることが期待され更に、生涯学習の必要性や楽しさについて伝える方法を工夫するよう努めています。町HPからの情報発信に加え、SNSを有効活用し情報発信に力を入れていきます。

5. 識者からの意見

<ul style="list-style-type: none"> 積極的な広報活動の継続をお願いしたい。 公民館活動の更なる充実を図ってほしい。

教育委員会 事業評価表

1. 施策の体系<御代田町長期振興計画>

施策の柱	次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります
基本方針	いきいきとした生活を楽しむための充実した生涯学習の推進
主要施策	生涯学習の推進(人材バンクによる支援)

2. 施策に該当する事業

事業名	事業の内容(対象、実施状況、結果等)
1 人材バンク事業	<p>「人材バンク」登録者は48名であり、各種講座の講師を依頼したり、学校等からの照会により情報を提供するという仕組みは当初のまま継続しています。現在は学校との話し合いで、学校側から支援を希望する学習等について、必要な人材の確保に努め「人材バンク」の充実を図る必要があります。</p> <p>グループ連絡会、区長会等開催に合わせて、人材バンクへの登録についてPRを実施しました。24年度から、正月休みを利用し、児童向けの書初教室を開催しています。人材バンクに登録している書道愛好会の全面協力のもと、多くの講師によるきめ細かい指導をいただき、児童・保護者からも好評です。</p> <p>前年度(平成30年度)に引き続き、スケート教室には人材登録されている方、習字教室には社会教育団体に登録されている方に講師としてご指導いただいています。</p>
事業費	0千円 (事業の自己評価) 必要性 = A 妥当性 = A 成果 = B 効率性 = B 方針 = A

3. 事業評価の凡例

事業の必要性	A:増加している B:横ばい C:減少している
事業の妥当性	A:妥当である B:ほぼ妥当である C:あまり妥当ではない D:妥当ではない
事業の成果	A:上がっている B:やや上がっている C:あまり上がっていない D:上がっていない
事業の効率性	A:高い B:やや高い C:やや低い D:低い
事業の方針	A:拡大 B:現状のまま継続 C:改善後継続 D:統廃合 E:休止 F:廃止

4. 施策に対する現状の課題、改善策等

<p>・国では国型コミュニティスクールへの移行を推進しています。そのため今後、学校運営協議会の設置の検討が必要です。今後も人材の確保に向け「人材バンク」の充実を図り、学習支援に活用していく必要があります。</p>

5. 識者からの意見

<p>・学校の先生方の働き方改革で、時間外勤務の短縮が進められているが、部活動の指導は時間外勤務となることから、先生方としても部活動を指導ができる人材がいればとても助かるため、体制の整備をお願いしたい。</p>
<p>・社会福祉協議会においても人材の名簿を作成しているため、連絡を密にして学校に関わる人材を増やし、盛り上げていけるとよい。</p>
<p>・人材バンク内での横の繋がりがあるとよい。</p>
<p>・学校からの要望に応じられる人材バンクを整えてほしい。</p>

教育委員会 事業評価表

1. 施策の体系<御代田町長期振興計画>

施策の柱	次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります
基本方針	いきいきとした生活を楽しむための充実した生涯学習の推進
主要施策	生涯学習の推進(貸館事業)

2. 施策に該当する事業

事業名	事業の内容(対象、実施状況、結果等)
1 複合文化施設維持管理事業	複合文化施設の維持管理により環境整備を行い、施設を学習機会や活動の場として提供し、生涯学習活動等の充実を図っています。 複合文化施設開館日数317日、利用件数2,313件、利用者数38,511人、日平均利用者数122人。 施設維持管理は、貸館業務、清掃業務、設備の保守管理業務など22業務を民間委託。 施設修繕:移動観覧席車輪交換修繕、舞台操作盤修繕、調光設備修繕。
事業費 38,833千円	(事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= A 成果= A 効率性= A 方針= B

3. 事業評価の凡例

事業の必要性	A:増加している B:横ばい C:減少している
事業の妥当性	A:妥当である B:ほぼ妥当である C:あまり妥当ではない D:妥当ではない
事業の成果	A:上がっている B:やや上がっている C:あまり上がっていない D:上がっていない
事業の効率性	A:高い B:やや高い C:やや低い D:低い
事業の方針	A:拡大 B:現状のまま継続 C:改善後継続 D:統廃合 E:休止 F:廃止

4. 施策に対する現状の課題、改善策等

<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度の利用者は3,182人減少し、それに伴い使用料収入も123千円減少しました。最大の理由は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策による2月3月中の施設利用自粛の影響が大きく、この2か月間に限ると、昨年度に比べ223件5,370名の減少でした。今後は、利用者が安全安心して施設を利用いただけるような運営の実施と、利用者増加に向けた検討の必要があります。
--

5. 識者からの意見

<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で、利用者の増加が見込めない状況ではあるが、適切な新型コロナウイルス感染対策を講じた上で、近隣の市町村の方に来ていただき、安全・安心に利用できることをアピールできると良い。 使用料の減収についての考え方をはっきりさせて、これからの対応を決定する必要があると感じる。

教育委員会 事業評価表

1. 施策の体系<御代田町長期振興計画>

施策の柱	次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります
基本方針	いきいきとした生活を楽しむための充実した生涯学習の推進
主要施策	生涯学習の推進(子育て支援)

2. 施策に該当する事業

事業名	事業の内容(対象、実施状況、結果等)
1 青少年問題協議会	7月に御代田駅前街頭啓発運動を行うとともに、広報紙に記事を掲載しました。 10月31日人権講演会「知っていますか？LGBT」御代田中学校にて開催。
事業費 39千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=B 成果=B 効率性=B 方針=B
2 こども自然探検隊	小学生を対象に学校・学年を超えた野外活動を行っています。登録児童数37名 年5回実施(R元年度)実績:①石尊山登山、②川の博物館見学、 ③宿泊体験1泊2日(B&G海洋センター)④化石の発掘体験、⑤昆虫体験館見学。
事業費 243千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=A 方針=B
3 なんでも体験隊	幼児～小学生の子どもをもつ家族を対象に、農作物の栽培や収穫を通じて食べ物を慈しみ、 楽しみながら学ぶ体験教室を行っています。10月には塩野中山間地事業組合協力のもと、 そば打ち体験を実施しました。また、ハロウィンカボチャを作成し、総合文化展に展示しました。 参加親子9組、年9回実施 平成26年度から運営委員を町農業青年団体「浅間クラブ」にお願いし、交流しています。
事業費 99千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=A 方針=B
4 少年少女合唱団 「つばさ」	小中学生を対象に学校・学年を超えた自主性を引き出す合唱活動を行っています。 登録児童数21名、練習年32回実施。 3月15日に予定のコンサートは新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。
事業費 232千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=A 方針=B
5 こども生け花教室	小学生2年～中学生を対象に、生け花を通して、情緒豊かな人格形成を図ることを目的に 行っています。登録児童数21名 5月～3月の第2・4土曜日に実施(計15回)、総合文化展へ出展。 3月のミニ華展は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。
事業費 73千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=A 方針=B
6 親子ふれ愛料理教室	小中学生の子どもをもつ家族を対象に、親子での調理実習を通し、食への関心を深める とともに、世代間の交流を図ることを目的に行っています。 参加親子計27組、年7回実施
事業費 106千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=A 方針=B
7 キックベースボール 大会	小学生を対象に行政区毎に、学年を超えて1つの競技を勝敗のみにこだわることなく 行うことで、学校や年齢を超えた交流を図ることを目的に行っています。 9月7日開催、参加者75名(5分館・9チーム出場)
事業費 0千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=A 効率性=A 方針=B

3. 事業評価の凡例

事業の必要性	A:増加している	B:横ばい	C:減少している	
事業の妥当性	A:妥当である	B:ほぼ妥当である	C:あまり妥当ではない	D:妥当ではない
事業の成果	A:上がっている	B:やや上がっている	C:あまり上がっていない	D:上がっていない
事業の効率性	A:高い	B:やや高い	C:やや低い	D:低い
事業の方針	A:拡大	B:現状のまま継続	C:改善後継続	D:統廃合 E:休止 F:廃止

4. 施策に対する現状の課題、改善策等

<ul style="list-style-type: none"> • ども自然探検隊では、ここ数年化石の発掘体験を計画しても、梅雨や台風の影響で当日は雨天プログラムに変更して開催していましたが、今回は無事開催でき、子どもたちも夢中になって取り組んでいました。今後も、それぞれの事業で内容の充実を図ります。 • 関係課と連携を図り、地域の豊かな社会資源を活用した土曜日や夏休み期間中の子どもの居場所づくり等、学校、家庭、地域が連携して子どもたちの成長を支える事業の推進を図る必要があります。 • 生涯学習では、学習成果を様々な活動に役立てることにより、社会全体が豊かになると期待しています。そのため、各種事業の卒業生が委員やサポーターとして参加していく仕組みを継続していきます。

5. 識者からの意見

<ul style="list-style-type: none"> • 様々な事業が展開しているが、大勢の皆さんに参加してもらえるように取り組みをお願いしたい。 • それぞれの事業が継続であるため、継続と変化の両立で中身を検討する必要がある。

教育委員会 事業評価表

1. 施策の体系<御代田町長期振興計画>

施策の柱	次代・郷土を担う人を育む文化のかおるまちをつくります
基本方針	いきいきとした生活を楽しむための充実した生涯学習の推進
主要施策	生涯学習の推進(図書館)

2. 施策に該当する事業

事業名	事業の内容(対象、実施状況、結果等)
1 図書館運営事業	蔵書数 100,853冊 利用者数 24,970人 貸出数 97,043冊 図書の貸し出し以外にも、ミニコンサート(春、夏、秋)、図書館フェスティバル、館内イベントなどを通して、図書館を身近に感じ活用していただけるよう企画運営してきました。 選書、予約やリクエストの受付、相互貸借、レファレンスなど、サービスの充実はもちろん、テーマ展示の充実・読書週間のしおりプレゼントなど、読書に興味を持てるような様々な工夫をスタッフ一同で考え実行しています。11月には貸出冊数累計200万冊となり、200冊目を借りた町内小学5年生児童と記念イベントを行いました。
事業費 14,162千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=B 効率性=B 方針=A
2 読書推進事業	「小さいおともだちのおはなし会」「おはなし会」・・・ボランティアの協力を得て、継続して行いました。(述べ参加者数:558名・・・ボランティア総会資料より) 「ブックスタート事業」人生初の絵本となるよう10か月健診で絵本を一冊贈呈しています。 「セカンドブック事業」小学一年生に学級文庫を寄贈。本年度より方法を変更しました。 「ほんわかひろば」偶数月の最終木曜日の館内整理日には、子育て世代の方々 に限り図書館を開放し、お子さんの声などを心配することなく選書したりできるようにしました。 親同士の交流の場としてもご利用いただいています。 「児童館出前読み聞かせ」・・・毎月、町内2児童館で小学1年生対象。とても賑わっています。 また、「ひだまりっこ」にも出向いておはなし会を行うなど、親子で本に親しむ機会を作り、小さい頃からの読書習慣の形成につながるよう努めています。 「地区社協主催事業での朗読会」・・・地区サロンなどでのイベントに出向き、熟練したボランティアの協力を得て朗読を行っています。 「ちいさな朗読会」・・・毎月第3水曜日に、朗読ボランティアの協力を得て開催しています。 「絵本読み聞かせ講座(全5回)」小林いせ子先生。受講者のべ75名(ボランティア含) 「ボランティア講座(紙芝居)」道化師の塚原成幸先生。一般参加含め64名が参加しました。 「学校図書館との連携」・・・学校司書連絡会を設け、意見交換を行いお互いの参考にしました。
事業費 590千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=A 成果=B 効率性=B 方針=A

3. 事業評価の凡例

事業の必要性	A:増加している B:横ばい C:減少している
事業の妥当性	A:妥当である B:ほぼ妥当である C:あまり妥当ではない D:妥当ではない
事業の成果	A:上がっている B:やや上がっている C:あまり上がっていない D:上がっていない
事業の効率性	A:高い B:やや高い C:やや低い D:低い
事業の方針	A:拡大 B:現状のまま継続 C:改善後継続 D:統廃合 E:休止 F:廃止

4. 施策に対する現状の課題、改善策等

・利用者の利便性が高まるような図書館運営や利用者の要望に対応できるレファレンスの資質向上に努めます。
・書架スペースが足りなくなってきたので、開架の充実を図るため書架を増やす必要があります。
・新型コロナの影響によりイベントは中止や規模縮小ですが、図書館を安心・安全に利用できるよう体制を作ります。
・令和元年度より司書連絡会を復活しました。R2年度も引き続き開催し、学校との連携を図っていきます。

5. 識者からの意見

- | |
|---|
| •図書館の企画がタイムリーでかなり良いので、積極的にアピールしていくことにより、図書館の貸し出し冊数や利用者の増加に繋がると思う。 |
| •引き続き学校司書との連携を深めてほしい。 |
| •書架を増やすなど、利用者に触れられる本を増やすとよい。 |
| |

教育委員会 事業評価表

1. 施策の体系<御代田町長期振興計画>

施策の柱	次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります
基本方針	スポーツへの主体的な取り組みの推進
主要施策	生涯スポーツの振興

2. 施策に該当する事業

事業名	事業の内容(対象、実施状況、結果等)
1 生涯スポーツ普及・振興事業	スポーツ推進委員の協力を得て、次のイベントを社会体育事業として開催しました。 この他には、補助金交付団体であるスポーツ協会でも大会や教室を開催しています。 ・7月20日:ちびっこ裸足で運動会 ・8月3日:みんな裸足で運動会 ・10月6日:町民大運動会 ・11月3日:町民マラソン大会 ・12月7日:小学生スポーツ交流会 ・11月12日,2月18日:筋肉セミナー
事業費 2,744千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=B 成果=C 効率性=C 方針=C
2 運動が習慣化されていない住民を対象とした取組推進事業	スポーツ推進委員による学校や保育園に運動の指導を実施しています。 また、6月30日にスポーツ推進委員7名が参加し「ニュースポーツ体験会」を開催しました。
事業費 22千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=B 成果=C 効率性=C 方針=A
3 スポーツ指導者等の育成・研修支援事業	スポーツ推進委員が以下の会議等に参加しました。 ・関東スポーツ推進委員研究大会(6/7):2名 ・長野県スポーツ推進委員研究協議会(11/9):2名 ・東信地区スポーツ指導者連携会議(11/1):1名 ・佐久地区スポーツ推進委員研究協議会総会(4/12):10名 ・佐久地区推進委員代議員会(4/10, 2/20):各1名 ・佐久地区女性委員会・講習会(2/15):4名
事業費 73千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=B 成果=C 効率性=C 方針=C
4 関係各課と連携した生涯スポーツ事業	保健福祉課で実施している老人スポーツ大会の運営に関する相談や、当日の運営に協力しました。
事業費 0千円	(事業の自己評価) 必要性=A 妥当性=B 成果=C 効率性=B 方針=C

3. 事業評価の凡例

事業の必要性	A:増加している B:横ばい C:減少している
事業の妥当性	A:妥当である B:ほぼ妥当である C:あまり妥当ではない D:妥当ではない
事業の成果	A:上がっている B:やや上がっている C:あまり上がっていない D:上がっていない
事業の効率性	A:高い B:やや高い C:やや低い D:低い
事業の方針	A:拡大 B:現状のまま継続 C:改善後継続 D:統廃合 E:休止 F:廃止

4. 施策に対する現状の課題、改善策等

<ul style="list-style-type: none"> 施設利用者数や利用件数が10年近く減少し続けている中で、有効な対策や事業展開を早急に検討する必要があります。 スポーツ推進委員会の活動をより活発に行う必要があります。 スポーツ指導者等の育成及び研修支援が不十分であるため、計画的な事業実施に努めます。 関係各課とより積極的な連携・協力体制を整備するよう努めます。

5. 識者からの意見

<ul style="list-style-type: none"> 最近の流行りを取り入れて興味を惹いたり、スポーツを習熟された人や若い人をスポーツ指導者として任用する等のスポーツへの関心が高まるような取り組みをお願いしたい。スポーツ指導者に人材バンクを活用してはどうか。 保健福祉課で実施している老人スポーツ大会やメタボリックシンドロームへの取り組みといった専門的な分野への関わりを持っていただくことで色々な人と接する機会が増えると思う。 スポーツに対する興味・関心を持ってもらうことで施設利用者の増加に繋がるため、有効な対策を検討してほしい。 指導者の育成は、すぐには成果が上がらないので、長い目で判断をする必要がある。

教育委員会 事業評価表

1. 施策の体系<御代田町長期振興計画>

施策の柱	次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります
基本方針	スポーツへの主体的な取り組みの推進
主要施策	生涯スポーツの振興(スポーツ団体育成・支援)

2. 施策に該当する事業

事業名	事業の内容(対象、実施状況、結果等)
1 団体の育成・支援事業	令和元年度は、例年と同様の事業を実施しました。 主な事業内容は、スポーツ協会への補助金の交付と事務局支援。スポーツ協会やスポーツ連盟が主催する大会等に係る施設使用料の減免などです。
事業費 3,000千円	(事業の自己評価) 必要性= B 妥当性= B 成果= C 効率性= C 方針= C
2 会場借上事業	スポーツ少年団(カーリング)が使用するカーリングホールの会場借上料を、上限額を年間220万円として支出しています。
事業費 2,200千円	(事業の自己評価) 必要性= B 妥当性= C 成果= B 効率性= C 方針= C
3 全国大会等参加者 激励金支給事業	現段階での支給基準では、北信越大会以上の出場権利を得た選手が申請された場合に支給しています。ただし、予算の範囲内によるとなっておりますが、当初予算で500千円計上し、不足する場合には、随時増額補正をしています。 北信越大会10,000円、全国大会20,000円、世界大会30,000円となっております。 ・北信越大会 : 5名 50,000円 ・全国大会 : 23名 260,000円 ・世界大会 : 1名 30,000円
事業費 340千円	(事業の自己評価) 必要性= B 妥当性= B 成果= B 効率性= C 方針= C

3. 事業評価の凡例

事業の必要性	A:増加している B:横ばい C:減少している
事業の妥当性	A:妥当である B:ほぼ妥当である C:あまり妥当ではない D:妥当ではない
事業の成果	A:上がっている B:やや上がっている C:あまり上がっていない D:上がっていない
事業の効率性	A:高い B:やや高い C:やや低い D:低い
事業の方針	A:拡大 B:現状のまま継続 C:改善後継続 D:統廃合 E:休止 F:廃止

4. 施策に対する現状の課題、改善策等

<ul style="list-style-type: none"> 現在、町からスポーツ協会に3,000千円の補助金を交付し、その内スポーツ協会の傘下であるスポーツ少年団へは1,000千円が補助されています。しかし、スポーツ少年団を含むスポーツ協会の会員数は減少している状況であることや、総合型地域スポーツクラブや各種連盟との公平性等も考慮して、今後の対応の検討が必要です。

5. 識者からの意見

<ul style="list-style-type: none"> 全国大会等の上位の大会に進んだ方は広報やまゆりに掲載されているが、スポーツ少年団の活動している様子も広報やまゆり等に掲載することで、団員の増加に繋がると思われる。 町としてのスポーツに対する考え方を決定して、それに応じた予算配分が必要である。 カーリングホールは半年しか利用することができず、利用できない時期は子どもたちにとっては活動が不十分であるため、近隣の施設を利用できるような体制があるとよい。 カーリングホールの使用期間を考えた場合、費用対効果などを含めて他の方法も考える必要があるのではないかと。
--

教育委員会 事業評価表

1. 施策の体系<御代田町長期振興計画>

施策の柱	次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります
基本方針	スポーツへの主体的な取り組みの推進
主要施策	スポーツ施設の整備

2. 施策に該当する事業

事業名	事業の内容(対象、実施状況、結果等)
1 施設の維持管理事業	<p>施設の日常的な清掃業務等をシルバー人材センターに一部委託しています。</p> <p>日頃の施設点検はできる限り行い、利用者の安全確保や利便性を図りました。</p> <p>既存施設は築20年以上が経過しており、経年による老朽化に伴う施設修繕費が毎年増加傾向にあり、突発的な破損や損壊、機能不良などは、その都度予算化し、出来るかぎり修繕に努めました。</p> <p>・社会体育施設管理委託(委託先:シルバー人材センター):8,498千円</p> <p>・消防設備保守点検委託(委託先:長野県パトロール他):183千円</p> <p>・火災盗難集中警備委託(委託先:長野県パトロール):549千円</p> <p>【修繕箇所】</p> <p>・やまゆり体育館事務所冷房設備設置工事:214千円</p> <p>・やまゆり体育館床改修工事:3,608千円</p>
事業費 25,846千円	(事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= B 成果= B 効率性= B 方針= B
2 施設改修計画事業	<p>各施設が全般的に老朽化し、施設修繕費も毎年増加傾向にあります。各施設の利用状況を調査しました。理事者等と協議をして令和2年度中に庁内関係部署との検討会議を開催することとしました。</p>
事業費 0千円	(事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= B 成果= B 効率性= B 方針= A

3. 事業評価の凡例

事業の必要性	A:増加している B:横ばい C:減少している
事業の妥当性	A:妥当である B:ほぼ妥当である C:あまり妥当ではない D:妥当ではない
事業の成果	A:上がっている B:やや上がっている C:あまり上がっていない D:上がっていない
事業の効率性	A:高い B:やや高い C:やや低い D:低い
事業の方針	A:拡大 B:現状のまま継続 C:改善後継続 D:統廃合 E:休止 F:廃止

4. 施策に対する現状の課題、改善策等

<ul style="list-style-type: none"> 各施設の経年による老朽化に伴う施設修繕費が年々増加しています。 施設利用率の改善を図りつつ各施設の改修又は建て直しについて、計画的かつ長期的に精査・検討を進めます。 適正な施設管理を行うために、職員が研修会や講習会に参加をし、知識や技術、資格の習得が必要です。
--

5. 識者からの意見

<ul style="list-style-type: none"> スポーツ施設としてだけでなく、災害時には避難施設としても活用するため、施設整備に配慮するとよい。
--

教育委員会 事業評価表

1. 施策の体系<御代田町長期振興計画>

施策の柱	次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります
基本方針	文化・芸術の織りなす地域づくりの推進
主要施策	文化・芸術の振興

2. 施策に該当する事業

事業名	事業の内容(対象、実施状況、結果等)
1 博物館事業	博物館事業は、常設展示・企画展示・体験学習活動の3つの柱からなっています。 常設展示は、国重要文化財焼町土器と浅間山麓の縄文文化とともに、浅間火山がテーマです。 企画展では「縄文人間展」【春・夏季】、「浅間山麓の縄文文化展」【秋季】を実施。 また、アマナとの合同企画の「縄文フォトコンテスト」を実施しました。 体験学習では勾玉作りや土器作りなどを中心に事業を実施しました。 令和元年度の来館者は38,045名で、30年度の来館者41,613名より、3,568人の減でした。 また、成人の他、練馬区・中野区・大田区など都内や、佐久郡内の小学校団体の利用があり、 たくさんの子供たちに浅間山麓の自然や歴史文化にふれていただくことができました。 あわせて、来館不可能な学校には出前博物館というかたちで事業を行いました。
事業費 17,824千円	(事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= A 成果= A 効率性= B 方針= B
2 文化財保護事業	埋蔵文化財保護事業では、塩野の広畑遺跡の整理作業を実施しました。 このほか、太陽光発電や宅地分譲など開発に伴って破壊の懸念される町内の埋蔵文化財 の立会調査や試掘調査事業を行いました。 一般文化財保護では、国・県・町指定の文化財の維持管理、ふるさと納税を利用したの 脆弱な縄文土器の修理、蒸気機関車D51の整備・公開、草越の寒の水・小田井の道祖神まつ りなど民俗文化財継承への補助事業などを行いました。
事業費 6,593千円	(事業の自己評価) 必要性= A 妥当性= A 成果= B 効率性= B 方針= B

3. 事業評価の凡例

事業の必要性	A:増加している B:横ばい C:減少している
事業の妥当性	A:妥当である B:ほぼ妥当である C:あまり妥当ではない D:妥当ではない
事業の成果	A:上がっている B:やや上がっている C:あまり上がっていない D:上がっていない
事業の効率性	A:高い B:やや高い C:やや低い D:低い
事業の方針	A:拡大 B:現状のまま継続 C:改善後継続 D:統廃合 E:休止 F:廃止

4. 施策に対する現状の課題、改善策等

<ul style="list-style-type: none"> ・県内外から子供たちを含めた多くの方々に訪れていただき、浅間高原の歴史や文化・芸術にふれ、その魅力を感じていただき、豊かな知識や心を育んでもらうことが博物館事業の課題です。 元年度は縄文ブームをうけ多くの方に訪れていただきました。 ・一般文化財および埋蔵文化財など文化財保護事業では、貴重な自然・文化・歴史遺産が損なわれることがないよう、よりベストな状態で維持・管理を行い、また普及啓発活動も重要と考えられます。 ・こうした文化財保護事業は、博物館展示などとリンクして実施することも必要な課題や改善策と考えられます。
--

5. 識者からの意見

<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術への関心が深められるような取り組みを引き続き実施してほしい。

教育委員会 事業評価表

1. 施策の体系<御代田町長期振興計画>

施策の柱	次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります
基本方針	次代・郷土を担う人材育成
主要施策	奨学金制度の見直し

2. 施策に該当する事業

事業名	事業の内容(対象、実施状況、結果等)
1 奨学金貸与事業	<p>奨学金貸与事業は、人材の育成と教育の機会均等の窓口を広げることを目的として、平成10年度から25年度までに57名の生徒・学生が奨学金を利用しました。</p> <p>制度発足から10数年経過し、国の施策や民間の教育資金、各大学の奨学金制度など、さまざまな選択肢があります。</p> <p>加えて、申請者の減少や一部の貸与者の償還金に滞納が生じてきているなどの理由により、平成25年度をもって新規の奨学金貸与事業を休止しています。</p> <p>【奨学金貸与人数】 57名（高校生：2名、短大生：2名、大学生：53名）</p> <p>【奨学金貸与総額】 89,920千円</p> <p>【最終償還年度】 令和7年度</p>
事業費	0千円 (事業の自己評価) 必要性=C 妥当性=B 成果=D 効率性=C 方針=E

3. 事業評価の凡例

事業の必要性	A:増加している B:横ばい C:減少している
事業の妥当性	A:妥当である B:ほぼ妥当である C:あまり妥当ではない D:妥当ではない
事業の成果	A:上がっている B:やや上がっている C:あまり上がっていない D:上がっていない
事業の効率性	A:高い B:やや高い C:やや低い D:低い
事業の方針	A:拡大 B:現状のまま継続 C:改善後継続 D:統廃合 E:休止 F:廃止

4. 施策に対する現状の課題、改善策等

<p>・日本学生支援機構、日本政策金融公庫の奨学金、各大学の奨学金制度や金融機関の教育ローンなど学資資金の調達に際し、様々な選択肢があることなどにより利用者が減少した経過があります。このことから、町の奨学金貸与事業については、総合的に判断し、平成25年度をもって新規受付を休止、28年度をもって貸与を終了しています。</p> <p>現時点では、全て奨学金が償還された時点(令和7年度)で奨学金の貸与事業を廃止にする方向としています。</p> <p>・日本学生支援機構では、令和2年度からの入学予定者に対し、新しい修学支援制度(給付型奨学金、授業料・入学金の減免)が始まるなど、新たな取り組みを進めています。近隣では、給付型の奨学金を実施している自治体があるものの、寄付金を財源として実施しています。給付型奨学金となると、寄付金などの財源がないと実施は困難ですが、今後の学生を取り巻く状況や景気の動向、他自治体の動向に注視しつつ、今後の方向性(新たな奨学金制度もしくは廃止)について判断していく必要があります。</p>
--

5. 識者からの意見

<p>・町にIターンやUターンをする方を対象とした補助があると、町が盛り上がると思う。</p> <p>・高校生の中には、金銭的に家計が厳しく、アルバイトで生計を立てて学校に通っている学生もいるため、条件を付けた給付型等の検討をお願いしたい。</p> <p>・クラウドファンディングやふるさと納税を活用した財源など、近隣市町村の動向を注視しつつ、検討してほしい。</p>
--

Ⅲ 教育委員会活動

1. 組織体制（令和2年3月末時点）

教育長1名

教育委員4名（職務代理者1名・委員3名）

事務局及び教育機関等の職員

教育次長1名・参事1名

係長以下正規職員13名・その他職員54名

2. 委員会の活動概要

（1）委員会の会議

定例会（月1回、月末頃）及び臨時会を開催し、学校教育及び社会教育等について審議をしました。御代田町教育委員会傍聴人規則に基づき、会議を公開しています。

会議名	開催回数	議案件数	報告事項件数	その他
定例会	12回	24件	15件	37件
臨時会	1回	1件	0件	0件
総合教育会議	2回	5件	0件	0件

（2）視察研修等

法律の改正や国の教育改革が推進される中、教育行政への共通認識を図るとともに、教育の諸課題への解決に向けた視察研修等を実施しました。

視察研修等名	期 日	場 所
佐久地区市町村教育委員会連絡協議会研修総会	4月28日	長野県小諸市 東信教育事務所
全国町村教育長会	5月9日	東京都中央区 銀座ブロッサム
関東甲信越静市町村教委連合会研修会	5月31日	山梨県北杜市 女神の森セントラルガーデン
長野県市町村女性教育委員連絡協議会研修会	6月18日	長野県伊那市 いなっせ
長野県町村教育長会研修総会	7月4日	長野県立科町 ホテルアンビエント蓼科
県教育委員会と佐久地区教育委員会懇談会	7月24日	長野県小諸市 東信教育事務所
新任教育委員研修会	8月21日	長野県 総合教育センター
長野県市町村教育委員会連絡協議会研修総会	10月11日	長野県飯田市 文化会館

(3) 教育委員等の学校訪問

教育委員や主幹指導主事が学校を直接訪問し、学校の現状や教職員の考え方等を把握するとともに、学校側の町教委に対する要望等を聴取し、教育行政の充実に資することを目的として実施しました。

訪問校	期 日	内 容
北小学校	6月26日 他随時	授業参観及び教職員との懇談等
南小学校	7月22日 他随時	授業参観及び教職員との懇談等
中 学 校	6月26日 他随時	授業参観及び教職員との懇談等

(4) 教育長・教育委員の関係行事等への出席

教育長並びに教育委員が教育委員会で実施する総会や行事等に参加することにより、事業の実態を把握するとともに、教育行政の充実に資することを目的として実施しました。

期 日	主な行事等	期 日	主な行事等
4月1日	辞令交付式・転入教職員訪問	8月17日	博物館講演会
4月4日	小・中学校入学式	8月21日	教育委員会事務評価委員会
4月13日	図書館開館記念コンサート	8月29日	第1回総合教育会議
4月19日	北小・南小学校PTA総会	8月30日	ちびっこみんな裸足で運動会
4月26日	中学校PTA総会	9月25日	図書館フェスティバル
5月3日	各区対抗365歳野球大会	9月27日	博物館講演会
5月12日	博物館講演会	10月6日	町民大運動会
5月16日	中学校部活動運営委員会	11月3日	町民マラソン大会
6月8日	博物館講演会	11月4日	中学校創立60周年記念式典
7月2日	青少年健全育成街頭啓発運動	11月9日	きなんしまつり芸能発表会
7月13日	寺子屋特別編	11月14日	第2回教育支援委員会
7月18日	児童生徒事故防止のための危険箇所点検	12月15日	第1回小中合同サミット
7月18日	電子メディア講演会	1月27日	中学生模擬議会
7月20日	ちびっこみんな裸足で運動会	1月29日	第2回小中合同サミット
8月2日	町内三校合同研修会	1月30日	第2回中学校部活動運営委員会
8月3日	博物館講演会	2月2日	寺子屋特別編
8月7日	寺子屋特別編	2月26日	第3回小中合同サミット
8月9日	寺子屋特別編	3月17日	小学校卒業証書授与式
8月14日	各区対抗野球大会	3月18日	中学校卒業証書授与式
8月15日	成人式	3月19日	第2回総合教育会議